

ダイコン洗浄機 韓国へ

旭川の企業 葉があってもOK

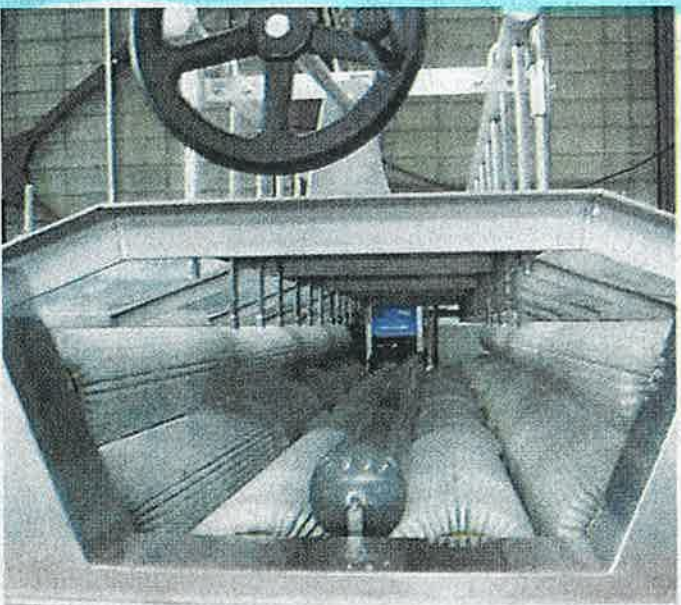
葉がついたままダイコンを洗うことができる業務用の機械を開発、販売している旭川市の農業機

械製造「エフ・イー」(佐々木通彦社長)が、今月下旬にこの商品を韓国に輸出することになった。道内企業が製品機械を直接輸出する例はほとんどないという。

同社は99年に葉付き大根洗浄機を開発。それま

で葉を切り落としたダイコンばかりが流通していたのは、葉を折らずに洗える機械がなかったためだが、この製品の登場により店頭で葉付きで並ぶ機会が増えた。

道内や東北、関東、九州に約150台を販売。こ



葉がついたままダイコンを洗浄できる機械。回転するブラシの中を進み、シャワー状の水が泥を落とす(エフ・イー提供)

うした機械を探していた韓国の農業機械関連会社が、旭川市や洗浄機を使う生産地を視察した結果、購入を決めた。韓国と北朝鮮の軍事境界線に近い陽口で、農業生産法人が使うという。

輸出される洗浄機は1日2万本を洗える。輸送費用などを含めて1台3200万円。韓国軍が駐留する地域で、地域振興のための軍関連予算で購入される。韓国国内では近年、農産物の土を洗い落としてから出荷・流通するようになってきており、輸入した機械はキムチやカクテキなどの特産物作りに力を発揮するとみられる。

この機械はダイコン収穫が終わった11月には済州島に移設。陽口には来年、この5倍の処理能力がある施設を改めて輸出する予定だ。韓国のほかの2カ所からも引き合いがあるという。